

研究種目：基盤研究 (C)
 研究期間：2006年～2009年
 課題番号：1852007
 研究課題名 (和文) 中国イスラーム山東学派におけるスーフィー哲学の受容と変容の研究
 研究課題名 (英文) A Study on Sufi philosophy transplanted in Shandong area and its development
 研究代表者 松本 耿郎 (MATSUMOTO AKIROU)
 聖トマス大学・人間文化共生学部・教授
 00159154

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学、思想史

キーワード：山東学派、スーフィズム、完人、道乗、真乗

1. 研究計画の概要

明末の陳思、清代初期の常志美、舎起靈などによって山東地方に広められたイスラーム教学はイスラーム法学や神学よりも倫理的完成を目指すスーフィズムの学習に重点が置かれていた。スーフィズム重視の傾向は1949年の共産党中国設立まで続いていた。そこで山東省のイスラーム関係文物にのこるスーフィズムの遺跡を調査し、山東地方につたわったスーフィズムの実態をさまざまな角度から解明しようとする研究である。

2. 研究の進捗状況

初年度、二年度、三年度と現地調査をおこない、山東省のイスラーム教徒居住区にのこるスーフィズム関係のアラビア語、ペルシャ語の写本調査、石碑調査、聞き取り調査などを行った。初年度は済南、済寧の清真寺を主として調査した。二年度は済南北方の石家村清真寺に保管されているアラビア語、ペルシャ語の写本の調査をおこなった。三年度は再度石家村の写本調査と山東学派の学燈を受け継ぐ最後の経堂教師楊宝泉氏とのインタビューに成功した。プロジェクトが始まるとほぼ同時に伊牧之「済南伊斯蘭教史」が出版され、この書物の記述に案内されて研究を進めることができた。

3. 現在までの達成度

研究調査を進める上で未知の文物、人物と出会うことで研究の道筋がいくつかに分岐してきたが、本来の研究目標にかなり近づいてきている。石家村の写本調査についてはほぼ終了することができた。

4. 今後の研究の推進方策

今年度は研究計画の最終年度なので、過去三年間に収集した資料・情報の整理をし、分析

し成果報告書を作成し、山東学派のスーフィズムの西アジアのスーフィズムとの関係を考察しようと計画している。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

中国イスラーム哲学における「全体大用」に関する考察—馬復初(徳新)における「全体大用」を中心に—平成19年2月英知大学論叢サピエンチア41号

“The Sufi Intellectual Tradition among Sino-Muslims”, *Sufism*, vol. II. Routledge, London, 2008

イスラームの死生観と馬復初の来世観、平成21年 聖トマス大学論叢サピエンチア43

[学会発表] (計 1 件)

“On Rumi’s Philosophy of Language” International Congress of Rumi, Teheran, 2008

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]